

Title	企業成長に関する一考察 - 企業成長をめぐる理論的考察と若干の事例研究 -
Sub Title	
Author	鈴木貞夫(Suzuki, Sadao) 藤枝省人
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第415号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0415">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0415</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	鈴木 貞夫	主査	藤 枝 省 人
	(株式会社電通)	副査	太 田 康 信
所属ゼミナール	田 中 滋 研		田 中 滋

## 企業成長に関する一考察 —企業成長をめぐる理論的考察と若干の事例研究—

従来、企業成長に関する実証的研究の多くは、成長要因についての統計的な検証を主目的とし、企業成長自体の意味的考察や、財務データ以外に質的に成長を表現できる要因への関心は持たれることが少なかった。またそれらの研究は、アンケート調査という手法に頼るため、その限界(例えば定性的な要因の評価にあたっては回答者のバイアスが大きく影響し易い)からものがれられなかった。そこで本研究では、従来の研究ではとりあげられることの少なかった(しかし本質的には重要な意味を持つ)これらの要素にスポットをあて、企業成長という現象の解明を試みる。論文は理論編と事例編より構成され、理論編では、①成長の意味の考察、②成長要因の整理とその意味の検討、③質約に成長を表わすものの発見という3つの作業を中心に行なった。①については、所謂「企業の経済学」的視点を導入し、企業の構成母体(株主、経営者、従業員)の立場から、企業成長をそれぞれの「期待」実現のための手段として位置付けた。②は事例編での分析のための基礎的作業である。また、③においては、グレイナーの企業成長モデルをベースとして、成長に応じて企業内に発生する諸現象を「成長を表徴するもの」としてとらえ、その実体が様々な不安定であると指摘した。以上の理論編での作業をふまえて、企業経営者対象のインタビュー調査(対象は10社)を実施した。その結果を分析したのが事例編である。ここでの最大の成果は、企業の成長要因は当該企業の規模や成長段階に応じて、異なった表出の仕方をしているという事実であった。具体的には、規模が小さく、成長の初期段階にあるうちは、市場の高成長率や経営者能力が単独に作用して成長していくという例が数多く見られた。企業がさらに成長を続け、規模も拡大すると、組織や従業員、さらには戦略などの総合的な成長要因が、重要な意味を持つようになることが明らかになった。